

自然史 かわらばん No.11

2017.4



低山に生育し、秋に開花する型のミチノクヨロイグサ（石川県中能登町）

第22回企画展 「セリ科のなかま」

【場所】 県立自然史資料館 2F企画展示室

【期間】 平成29年2月4日(土)～6月11日(日)

ニンジンやセロリなどの野菜、クミンやフェンネルなどのスパイス、当帰^{とうき}や柴胡^{さいこ}などの生薬等、経済的にも重要な種類をたくさん含むセリ科の植物は、世界で約 3700 種、日本には約 80 種があります。石川県では、約 40 種が自生します。企画展「セリ科のなかま」では、栽培される有用植物から石川県に生育する野生植物まで、幅広く紹介しています。

約 80 点の展示物の中で最も大きいのは、非常に草丈の高いミチノクヨロイグサ(*Angelica sachalinensis* var. *glabra*)で、全長は 4.2m もあります。ミチノクヨロイグサは、シシウド属 *Angelica* の植物です。シシウド属は、

日本のセリ科の中で最も多くの種を含みます。日本には 20 数種が自生し、石川県には 7 種が確認されています(変種を除く)。この属はトウキやノダケのような薬用植物として知られる種もありながら、分類が難しい仲間です。特に分類が混乱しているのが、ミチノクヨロイグサなのです。

白山の亜高山帯の草原には、シシウド(*Angelica pubescens*)の変種ミヤマシシウド(*Angelica pubescens* var. *matsumurae*)が生育しています。ミヤマシシウドに似て、毛の無いものはケナシミヤマシシウド(*Angelica pubescens* var. *glabra*)と名づけられていました。その後、ケナシミヤマシシウドの和名はミチノ

クヨロイグサに変更されました。ミチノクヨロイグサは、エゾノヨロイグサ(*Angelica sachalinensis*)に近縁とされたので、シシウドではなくエゾノヨロイグサの変種に変更されたからです。

ところが、ケナシヤマシシウドをミチノクヨロイグサに変更して、単純に解決とはいきません。シシウド属は種類が多いうえに分類が難しく、正しく同定がされないことがしばしばあります。同一種が地域(県)によって別の種と認識されていることもあります。ある県でミチノクヨロイグサと呼ばれる植物が、他県でエゾニユウ(*Angelica ursina*)とされていたり、シシウドにされていたりするなど相当の混乱があります。ミチノクヨロイグサはエゾノヨロイグサの変種ではなく、やはりシシウドの変種にすべきとの見解もあります。さらに問題を難しくしているのは、ミチノクヨロイグサとされる植物の中にも変異があることです。県内には、①亜高山に生育・夏咲き、②低山に生育・夏咲き、③低山に生育・秋咲き、の3型があるようです。このミチノクヨロイグサに代表されるように、セリ科には研

究者の間でも解決できていない問題が残されています。本展を通して、植物の分類の世界に関心を持っていただければと期待しています。

展示では、植物学の知識があまりない人でも楽しむことができるように、野菜や生薬として役立つ植物のコーナーや香りを体験するコーナーを設けています。多くの方々にセリ科の植物が身近に感じられることでしょう。

(中野真理子)



今年のニュース

平成28年度の入館者数が過去最高に!!

石川県立自然史資料館は、平成18年に開館し、平成28年で開館10周年をむかえました。幸いなことに、平成28年度は、年間の入館者数が7300人を超えて過去最高となり(平成29年3月20日現在)、記念すべき節目の年となりました。

今年度は、ダイオウイカ標本の展示・公開がありました。これは、平成28年1月17日に能登半島沿岸に漂着したダイオウイカを当館が引き取り、当時開催中だった第20回企画展「日本海の生きものと環境—鯨・魚・蟹・海老・烏賊・貝ほか—」の一部として、3月31日から公開したものです。全身の標本に加え、内臓(卵巣・胃・盲嚢)や口器、

墨袋や軟甲・卵の標本を併せて展示しました。卵の標本は国内で他に展示している施設はなく、全身の標本は石川県では初の展示となりました。ダイオウイカの知名度・関心度は高く、多くの報道機関に取り上げられて話題を集めた結果、4月1日から6月30日までの入館者数は、前年の同じ時期と比べて3.1倍となり、1826人増加しました。ダイオウイカの展示は非常に好評であったため、現在も常設展示として公開を継続しています。

当館が保管する石川県の動植物、化石や岩石・鉱物などの自然史資料は、地域共有の大切な財産です。職員一同、これからも多くの皆様のご来館をお待ちしております。



講座・イベント情報



第22回企画展「セリ科のなかま」2017年2月4日(土)~6月11日(日)

4月

- 23日(日) 大人のための植物学講座—セリ科編—
13:30~16:30 / 館内 / 高1~大人 / 20名 / 4月1日より申込開始
- 29日(土・祝) アンモナイトのレプリカ作り
10:00~12:00 / 館内 / 小1~大人 / 16名 / 4月1日より申込開始
14:00~16:00 / 館内 / 小1~大人 / 16名 / 4月1日より申込開始
- 30日(日) ミクロの化石をみつけよう
10:00~12:00 / 館内 / 小1~大人 / 16名 / 4月2日より申込開始
14:00~16:00 / 館内 / 小1~大人 / 16名 / 4月2日より申込開始

5月

- 7日(日) バックヤードツアー—資料館の裏側をのぞいちゃおう—
13:30~15:30 / 館内 / どなたでも / 45名 / 4月9日より申込開始

6月

- 20日(土) 川の狩人ヤマセミを観察しよう
10:00~12:00 / 館外 / 小4~大人 / 20名 / 4月22日より申込開始
- 11日(日) 自然史講演会「漢方薬に配合されるセリ科植物」
14:00~16:00 / 館内 / どなたでも / 100名 / 申込不要
- 18日(日) 加佐ノ岬で植物観察会—ノハナショウブを見に行こう—
13:30~16:00 / 館外 / 小4~大人 / 15名 / 5月21日より申込開始

7月

第23回「冬虫夏草展—昆虫と菌類の不思議な世界—」企画展 2017年7月8日(土)~11月26日(日)

- 22日(土) プリティカムムシ、ミイラ復活大実験
13:30~16:30 / 館内 / 小4~高3 / 10名 / 6月24日より申込開始
- 22日(土) 夏の夜の昆虫採集会—ライトトラップをしかけよう—
19:30~21:00 / 館外 / 小3~中3 / 16名 / 6月24日より申込開始
- 29日(土) 植物の色の秘密をしらべよう
10:00~12:00 / 館内 / 小3~小6 / 16名 / 7月1日より申込開始

図書資料

自然史図書の検索ができるようになりました



当館には、約 28,000冊の自然史系の図書・雑誌が保管されています。特に、県内の自然史分野の調査・研究で活躍された方々から寄贈された資料が数多くあります。主

なものでは、地質学の大御所であった故紘野義夫氏(金沢大学名誉教授)、水生生物の保全に尽くされた矢島孝昭氏(金沢大学名誉教授)、能登のトキの保護で知られる村本義雄氏(羽咋市在住)、野鳥の会の中心人物であった故中村正博氏、日本のイヌワシ研究の第一人者だった故池田善英氏などから引き継いだものなどを挙げるができます。鳥類の資料に関しては、地方史だけでなく世界の参考書にまで及んでおり、子供向けの図書から専門書まで幅広く揃っているため、県内はもちろん中部地方でも他にないコレクションです。

このたび、所蔵している図書資料のリストを来館者の方々に公開することになりました。図書閲覧室に設置した専用パソコンで検索すれば(エクセル表の操作)、探している資料が見つかるかもしれません。閲覧室内に開架されている図書は自由に読むことができますし、書庫内に保管されている資料であっても館の職員に申し出ただけであれば利用することができます。(古保貴代)

教育普及 「出前講座」って、知ってますか？

当館の学校地域支援活動の中に、「出前講座」があります。この講座は、動物・植物・地学担当の学芸員をはじめとする当館スタッフが、小・中学校や公民館・児童館など県内各地の施設を訪問し、講演や工作などのイベントを開催するものです。

今年度は、かほく市の小学校における「学校周辺の動植物について」をテーマとする総合学習の時間に、当館の動物および植物担当の学芸員が講義と観察会を実施しました。また、小松市の公民館や児童館で科学工作を交えた講演会も開催しました。このように、石川県内それぞれの地域性や年齢層に合わせて、内容も充実したものになるようスタッフも研鑽を重ねております。

当館まで足を運べない場合であっても、標本を活用し

た講座や各団体の企画内容に応じた「出前講座」を実施していきたいと考えておりますので、是非ご利用いただければと思います。まずは、学校地域支援活動担当者までお問い合わせください。(北村栄一)



8月

- 30日(日) ペットボトルで顕微鏡ができちゃうの？
13:30~15:00 / 館内 / 小1~小6 / 30名 / 7月2日より申込開始
- 5日(土) 昆虫標本作製講座 - チョウ・トンボ編 -
10:00~15:00 / 館内外 / 小3~中3 / 16名 / 7月8日より申込開始
- 6日(日) ペットボトルで顕微鏡ができちゃうの？
13:30~15:00 / 館内 / 小1~小6 / 30名 / 7月9日より申込開始
- 19日(土) 昆虫標本作製講座 - 甲虫編 -
13:30~15:30 / 館内 / 小3~中3 / 16名 / 7月22日より申込開始
- 20日(日) 押し葉で植物ずかんをつくらう
13:30~16:00 / 館内外 / 小4~高3 / 20名 / 7月23日より申込開始
- 26日(土) 恐竜博士養成入門講座 - 実物に触って学ぼう -
10:00~11:30 / 館内 / 小1~小3 / 16名 / 7月29日より申込開始
14:00~15:30 / 館内 / 小1~小3 / 16名 / 7月29日より申込開始
- 27日(日) ふわふわ雲の模型をつくらう
10:00~12:00 / 館内 / 小1~小6 / 20名 / 7月30日より申込開始



■ 表記は、実施時間 / 活動場所 / 対象 / 定員 / 申込期間の順です。

■ 電話でお申し込みください。

■ 詳細は、当館にお問い合わせいただくか、ホームページ (HP) をご覧ください。

■ 申込 TEL 076-229-3450

■ 当館 HP
<http://www.n-muse-ishikawa.or.jp/>



第23回企画展

「冬虫夏草展 — 昆虫と菌類の不思議な世界 —」

【場所】 県立自然史資料館 2F企画展示室 【期間】 平成29年7月8日(土)～11月26日(日)

皆さんは、「冬虫夏草」をご存知でしょうか？冬は虫だったのに夏には草のようになることから、そのような名前が付けられました。冬虫夏草という名前だけでは、どのような生き物なのかよくわからないかもしれませんが、その実体は昆虫でも植物でもなく、キノコの仲間です。冬虫夏草は、昆虫に寄生する菌類で、その菌に感染した昆虫はしだいに衰弱して病死し、その遺骸からキノコ(子実体)が発生します。

元来、冬虫夏草とは、中国やチベットの高山帯に生息するコウモリガの幼虫に寄生する特定の菌のことを指していましたが、現在では他の昆虫やクモなどに同じように寄生する菌の総称としても用いられています。ガの他にも、オサムシやコガネムシなどの甲虫、ハエやハチ・アリ、カメムシやセミ、トンボやバッタ・ゴキブリなど様々な昆虫の冬虫夏草が知られており、どの昆虫を宿主とするかは冬虫夏草の種類によって異なります。冬虫夏草の研究の歴史は古く、日本や中国、ヨーロッパやアメリカなど世界中で研究が行われてきましたが、その生活環や生態・系統分類など未解明な部分が多いのが現状です。

中国では、冬虫夏草は不老長寿や滋養強壯の秘薬として古くから珍重されてきました。日本でも、漢

方薬として高値で取引され、薬膳料理や健康食品の素材としても利用されています。最近の研究では、冬虫夏草には実際に薬効がある有用物質が含まれているとも言われており、現代医学・薬学の研究対象としても注目を集めています。

今回の展示では、様々な昆虫とその冬虫夏草の標本、生態写真や図譜、漢方薬などの資料を展示し、冬虫夏草に関する最新の知見を紹介します。

(嶋田敬介)



利用案内

■ 開館時間：午前9時～午後5時
(入館は4時30分まで)

■ 入館料：無 料

■ 休館日：12月29日～1月3日

■ 駐車場：完 備
(大型バス駐車可)

交通案内



周辺地図(拡大)



【バスをご利用の場合】

- 6番乗り場
『95 北陸大学太陽が丘ゆき』または『95 北陸大学薬学部ゆき』
→【北陸大学太陽が丘下車】→徒歩約10分
- 7番乗り場
『12 湯涌温泉ゆき』または『12 北陸大学薬学部ゆき』
→【銚子口下車】→徒歩約10分
『12 北陸大学太陽が丘ゆき』
→【銚子口下車】または【北陸大学太陽が丘下車】→徒歩約10分

制作：指定管理者 特定非営利活動法人 石川県自然史センター

石川県自然史資料館

F 920-1147 石川県金沢市銚子町1-441
TEL 076-229-3450 FAX 076-229-3460
URL <http://www.n-muse-isshikawa.or.jp/>